

## 政治部報告

三三

過去一ケ年間の吾國政治情勢は、その基底を構築する經濟情勢の危機を反映してますますその不安の度を増大した。所謂テロ横行時代の後をうけて齋藤舉國一致内閣の出現したこと自體が最も雄辯に是を物語つてゐる。既成政黨の陣營に於いて政權授受の際必ず高調せらるべき憲政常道論々へ鳴を静めて齋藤内閣を迎へた根本的理由は、是によつて資本家階級の政治的支配の動搖混亂を救済せんとしたのに他ならない。従つてこの彼等の陣營に於ける崩壞的傾向こそは、吾國無産階級の政治的進出に絶好の機會を提供したものであるが、無産階級の政治的結束勢力は尙未だこの機會をとりへて資本家階級に最後の打撃を與へ得るまでに成熟せず、むしろその彈壓下に進出を阻まれ、一面ファツシヨ運動の盛頭によつてその苦難の度を増大した事は争ふべからざる事實であつた。

然しながら是が反撥勢力を統一整備するの急務が高調せられた結果として、單一無産政黨の結成を見たことは、經濟戰線の分野に於ける日本労働組合會議の成立と共に、吾等の全面的闘争の基礎を築いたものと言はなければならぬ。

本組合對社會大衆黨の關係は、社會民衆黨に對する關係の發展として特に緊密なるものがあり、本組合は同黨に對して團體的支持の態度を確立してゐる。従つて本組合政治部事業は當然同黨の活動にも觸れざるを得ないが、政黨運動と經濟運動とを一應分離考察すべき立場より、茲には主として組合單獨の政治運動のみを叙述するに止める。

本組合が毎年度大會の主要議案とする労働組合法等の基本的立法要求は、本年度に於いても重要な闘争題目として日本労働俱樂部乃至日本労働組合會議を通じて猛運動を展開したが、政府はその政權維持に汲々として、此等の労働階級の要望が尙實現の日遠き感あることは遺憾である。

然しながら本組合が最も重點を置いた問題は、直接吾等の生活に打撃と脅威とを與ふべき海運界不況打開のこの根本的原因を船腹の過剩としたの政治的解決であつた。即ち本組合は不況打開の一因たり、組合多年の要望であつた老朽船を此際淘汰し船質を改善し、日本海運界の多年の痛を一掃して、更に新なる勞資關係を樹立すべきことを意圖し、海事兼議會の開設を要求し、同會の答申を通じて遂に船質改善法の實施を見るに至つたのである。吾等はこの劃期的運動が將來の吾國海運界、而してその勞資關係の進展に甚大なる効果をもたらすべきことを確信する。本組合の日本海運再組織に對する熱意は、獨り船質改善に拍車を加へたのみに止まらず、遂に第六十四議會に於いて船舶安全法案を通過せしめ、是によつて海上人命安全條約及國際船舶滿載吃水線條約及船内労働監督制度の趣旨が實現せられたことは、更に組合が多年失業防止の觀點より要望せる船員特別徴兵検査便法の成文化を見たことともに、本組合の海運界に對する誠意の當然の報酬である。

更に此期間に於いて海上労働者の政治參與の實を擧げしむるがために新内閣の出現後その選舉修正聲明に應じて多年の主張たる不在投票制度の改正について詳細なる意見書を提出したが、わづかに法制審議會を動かし投票方法の簡易化を答申せしめたる不在投票制度の改正については、齋藤内閣の馬脚暴露と共に遂に第六十四議會への提案を見ずに終つたことは遺憾である。

尙此期間に於ける對政府運動を謂する政府への提出陳情書は左の如くである。

官吏身分保證に關する陳情

不在投票制度改正に關する陳情

危險物船積法規改正に關する陳情

米國に於ける日本船員に對する屈辱的身體検査反對に關する陳情

三三